HAKUKOUKAI

社会福祉法人　薄光会　広報紙

きらめき

第11号

Autumn（秋の風景）

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成１８年１１月２０日

社会福祉法人　薄光会　広報委員会発行

本部、豊岡光生園：	〒299-1742 千葉県富津市豊岡 3535-1	TEL 0439-68-1711
三 芳 光 陽 園：	〒294-0825 千葉県南房総市上堀 280	0470-36-3211
鴨川ひかり学園：	〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297	04-7099-3311
湊 ひ か り 学 園：	〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18	0439-70-6551(デイ)
		0439-70-6552(通所)

「福祉のゆくえ」

障害者自立支援法がこの十月に完全施行された。湊ひかり学園においては、援護施設として知的障害者通所更生施設と知的障害者デイサービスセンターの二つが合築されている。今回の完全施行で介護給付による障害者デイサービスが廃止されることになってしまった。これに代わって十月以降は市町村事業として地域生活支援事業「経過的デイサービス」の委託を受けることになった。幸い、従前どおりのサービス利用費、一割自己負担、上限額も踏襲された。しかし、それは来年の三月一杯までのわずか六ヶ月の事である。その後は、やはりこれも市町村事業である地域活動支援センター事業（Ⅱ型）の委託を受けなければならない。今のところ、この新しい事業のサービス利用料金などは未定である。事業者側としては、現状の事業収入が激減することなく、また、利用者に過大な負担を強いることなく事業を続けさせてほしいと思う。

さて、ここで少し、恨み辛みを言ってみたい。あくまでも個人的な意見としてである。障害者のデイサービスを潰して、更生施設等の保護・訓練を生活介護（介護保険の通所介護・デイサービスに合わせたのだろうか）としていることである。この生活介護事業は、誰でも利用出来る訳ではなく、障害程度区分３（介護保険での要介護２に相当するのであろうか。）以上の障害程度区分に認定されないと、利用出来ない事になっている。この事は、介護保険による高齢者サービスとは大きく違う点である。高齢者のデイサービスを例にとれば、要介護度の出ない要支援の方も利用出来るのである。

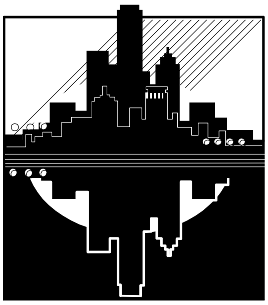
また、入所施設においては障害程度区分４（介護保険の要介護３に相当すると思われる）以上の方しか利用出来ないのである。介護保険施設ではどうかと言うと、要介護の認定があれば利用出来るのである。入所施設利用が障害程度区分４以上に限定されているのは、言ってみれば、施設に入所しにくくするという事である。障害者を入所しにくくするのには、それなりに理由があっての事であろう。「脱施設化」、「ノーマライゼーション」という世界的潮流があり、それを具現化する事に重きを置こうとしているのが容易に推察出来るからである。障害者自立支援法は、障害者個々の事情に細やかな焦点を当てて「支援」する事は、とりあえず後回しにして、障害者が地域で生きるための地域社会の構築を主眼としているように解釈出来る。

障害者が生きやすい地域社会の構築、それ自体は大変良い事であると思う。しかし、国の財政の逼迫状況を良い事に、やたらブルドーザーの如く、「とにかく均してしまえ」と、押しまくっているように感じるのは、平成十七年十一月に郵政民営化法案に大仰に焦点を当て、国民の耳目を引き付けておいて、障害者自立支援法を含む他の法案を霞ませ一気に通過させていったのではないかという疑いを拭えないからである。個々の事情を置いてきぼりにして、やたら押しまくる状況は、郵政民営化においても同じである。過疎地の郵便局は無くさないと公約しているはずだが、最近の報道では、過疎地の郵便局が他の地区と統合されて無くなってしまうと地域住民は危惧しているという。

自立支援法は利用者、保護者、障害者団体と施設関係に充分な説明がなされたかというと、疑問である。骨子だけの説明に誰が反対出来るだろうか。また、何を反対していいのか、判断出来るだろうか。法律の全貌が明らかにされた時、再考させる時間的余裕が与えられたであろうか。そのような配慮もなされないまま、拙速に決められていったのではないか。法案の可決後、「そんな、そんな、とんでもない！」と法律の実態が顕になってきてから慌てふためく始末である。まだまだ、公表されない部分がたくさんあるのではないかと、不信感をもってしまうのは私だけであろうか。

「国は人のためにある」と、再度、強く言いたい。

湊ひかり学園　施設長　岡田和夫



三芳光陽園

光　陽

『新潟中越地震被災地を行く』
～県高齢協非常災害対策委員会県外視察～

脱線した新幹線、押しつぶされた民家、がけ崩れに巻き込まれた車から救出された幼い男の子、ヘリコプターで輸送される牛・・・。新潟中越地震から約二年。県高齢協非常災害対策委員会の県外視察で訪れた被災した町。もうすっかり復興していると思って訪れた町は、まだ震災の傷跡を鮮明に残し、自然災害の驚異を物語っていた。

「この施設がつぶれるとは考えませんでしたが、あれだけ余震が続くとさすがに自信がなくなり、恐怖が募ってきました・・・」

訪問した北魚沼郡川口町の施設の相談員は当時の様子を生々しく語ってくれた。

ライフラインが復旧しない中、家族の安否がわからない中でも入所者の処遇、介護、施設の復旧にあたる介護員たち。家屋の全壊七名を含め、ほぼ全職員が被災者だった。三日間、家族の安否が確認できないまま勤務した職員もいたそうだ。

食事はガスボンベのみで百人分をまかなうためにどうしても時間がかかってしまうので三回の食事を二回にした。食器洗いの水を節約するため、食器にラップを掛けて使用した。夜間の排泄時には駐車場の職員の車のライトをハイビームにして明かりを確保した。情報が遮断され、確かな情報がない中、様々な工夫で入所者の暮らしを何とか確保しようと奮闘する介護員たちの姿が浮かんでくる。

「もう五分地震の発生が早いか遅いかしたら状況は全く違ったものになっていたと思います・・・大雪の中だったら・・・」相談員の話は、予定時間を過ぎても続く。思い出したくない出来事なのだろうが、決して忘れられない、忘れてはならない出来事なのだろう。どんな専門家の言葉より、言葉の一つ一つに真実でしか伝えようのない緊迫感や困難を乗り越えたという自信が感じられ、我々の心を引き込んでいった。予定時間を三十分以上オーバーして視察を終えた。

宿へ向う道中で親子三人をのみこんだ信濃川沿いのがけ崩れの現場が、ニュースで見たままの姿、いまだ復旧されないままで残っており、思わず手（運転していたので、心の中で）を合わさずにはいられなかった。

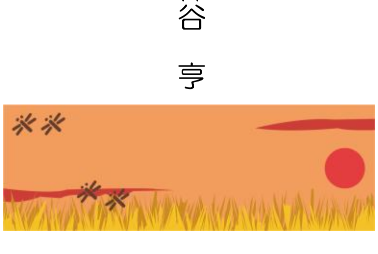
関東大震災からすでに八十年以上過ぎ、関東地方はいつ大地震が起きても不思議ではない状態と言われ、特に房総沖は危険だといわれている。今、震度七強の地震が起きたら、どうなってしまうのだろうか。川口町のような状態になった時、入所者の暮らしを確保できるのであろうか?施設建物は一時的には被災者の受け入れという役割も考えていかなければならない。それが一時的なものですまなかったらどうなるのか?

ここ、三芳光陽園の立地条件でどんな被害が考えられるのか?豊岡や鴨川、湊ではどうなのか?施設、法人のみならず、地域を含めた危機管理の体制の構築が必要と思われる。

どの施設も、規定どおりに防災訓練は行っているが、「本当に必要なのは『避難後の生活訓練』なのではないだろうか?」と、川口町の施設の相談員は実感を込めて話していた。その通りだとは思うが、どうやって・・・?

地震だけでなく自然災害とは縁が遠いと思われがちなこの地域でも、新潟中越地震を教訓に、様々なケースを想定した取り組みを始めていかなければならない。そう痛感させられた一日だった。

平成十八年十月十日
宿泊地　蓬平温泉にて
三芳光陽園　施設長　神谷　亨



湊ひかり学園

学園新聞

「ヤキイモしたよっ！」

＊ひかり農園産のサツマイモです！

まずはイモをよく洗って・・・

イモが焼けましたよ～

できた！

できた!!　できた!!

うまいっ！

＊むせているわけではありません（笑）

見ないでよっ！

「ボクのオモチャが人気者？」

湊ひかり学園児童デイ・サービスでは十月一日より中高生の方々の利用が可能になりました。新しい仲間が加わり、児童デイ・サービスは一層、賑やかになってきました。中学生のルイくん、ひかり学園の感想は？・・・

ボクの名前はルイ！　中学一年生の男の子で～す。ひかり学園の感想？　なんか、急にお兄さんになった感じ・・・　だって、みんなボクよりも小さい子達ばかりなんだよ！　今では、ちょっと偉そうに、エッヘン！　威張ってます（笑）。

でも、初めての利用日のこと、さすがのボクも緊張ぎみ。みんなと仲良く出来るかなぁ～　ドキドキしながら送迎車に乗ってみると・・・　うわぁ、みんなの視線が・・・　ん、でもみんなボクを見てない？　みんなの視線はボクが手に持っているオモチャ・・・　君、遊んでみる？　送迎車の中はボクのオモチャで盛り上がっちゃってます！　ほら、音楽が流れる絵本もあるよ。聴いて！　聴いて！・・・

もう、一ヶ月経つけど、ボクのオモチャは小さい子達の間で大人気！　あれ？　人気があるのはオモチャだけ？　ボクは？・・・　ボクだって人気者だよっ！

オモチャの方の人気が先行してしまっている感のあるルイくんでした。

（朝倉）

「遊び大好き！」

児童デイ・サービスを利用いただいている小学生の皆さんの「遊び」をご紹介しましょう。

＊まーくん編

ひかり学園で金魚を飼い始めた事を、一番喜んでくれているのは、まーくんかもしれません。

トイレやおやつに行く時など、水槽の前を通るたびに立ち止まって、スイスイ泳いでいる金魚を笑いながらジーッと見つめています。活動が始まるという事で、なごりおしそうにその場を離れますが、終わると真っ先に金魚のところへ・・・椅子を水槽の前に持ってきて、そこにチョコンと腰かけ、足をバタバタさせて嬉しそうに水槽を見つめ続けます。（これじゃ良く見えないからライトのスイッチを入れて！）と職員にお願いして、水槽の中がライトアップされました。すると、まーくんの表情はもう、うっとり・・・水槽にかじりついて眺めていましたが、今度は、（金魚たちはお腹が減ってるんだよ～だから早くエサをあげて！）と職員の手を引っぱってきます。誰よりも気の利く、とっても金魚想いのまーくんなのでした。

＊さーちゃん編

さーちゃんはトントン叩いて音を出すのがだ～い好き。今日もいい音が出る物はないかなぁ？とおもちゃ箱の中を覗いています。

まず、見つけたのが大きなペットボトル！両手に持って〝ボン　ボン〟と大きな音を出して、思いっきりペットボトルを叩いていました。

「さーちゃん！　宿題をやっているお友達がいるから小さな音にしてねっ」と職員の声。すると・・・

〝・・・トントン・・・トントン・・・〟

と控えめに叩いてくれる、けなげなさーちゃん！（まだ終わらないの？　早く思いっきり叩きたいよ～）と言いたげな表情で、宿題をやっているお友達のいる部屋を何度も覗きに来ます。

「さーちゃん！宿題終わったよ～　協力してくれてありがとう！」と職員が伝えると、（待ってましたぁ～）と言わんばかりに、すぐにペットボトルを〝ドン！　ドン！〟とさらに力強く叩き始めました。その音がとっても気に入ってしまったらしく？　足踏みをしながらルンルンでペットボトルを叩いています。でも、しばらくするとペットボトルには飽きたようで、（次は～これだ！）と嬉しそうに出してきたのは、ボーリングのピン！　リズム良く、〝トン・トン・トン〟と音を出していましたが、（これじゃ、音が物足らないの！）と、すぐ近くにあったスリッパを〝ペシ・ペシ・ペシ〟と叩き始めました。（こっ、この音がたまらない～）というような、陶酔しきった表情で・・・

最近はスリッパも飽きたようで、大きなオモチャのバットがさーちゃんの中では流行っているみたいです。〝バシッ　バシッ〟と豪快な音を出し、とても満足げ？　です。

「今日は何を叩いて音を聞かせてくれるのかな？」と、実は職員のひそかな楽しみにもなっているんです。

（碓井）

鴨川ひかり学園

ひかり通信

『となりの智さん物語』

保護者作業日の鴨川コース送迎バスには何名かのお母さん方が乗り合わせる。先程から智さんが、手に持った洗剤の空き箱をパコパコと鳴らし続けている。その音はうるさい程ではないが、皆の心にパコパコとひっかかって、何らかの想いをかきたてる。そんな微妙な雰囲気を察してしまうのが廣瀬さんだ。

いつも智さんの隣に座ってあれこれと世話をやいている彼は「おぅ、うるせーよぉ」と箱にちょっかいを出すが、智さんはかまわず鳴らし続ける。そのやり取りに否応無く皆の注目が集まってしまった時に、言葉を出したのは、今度は廣瀬さんのお母さんだった。

「あれが商売だかんよぉ」

その一言に周囲の戸惑いの気持ちがほぐれていく。私はそのセリフにひたってみる。（あの息子にしてあの母ちゃんだなー・・・）

ややあって、もう一言継ぐ。

「友だちみたいなもんだから」

私は今度の言葉もまた頭の中でリフレインしてみる。

友だち・・・

肯定にも受け取ってみる。

否定にも受け取ってみる。

友だち・・・

その言葉が、揺れながら頭から心へ降りていく。

友だち！

私は意を決し、あるいは、意に反し、智さんから箱を離し、かわりに自分の右手を重ねてみる。少しの間箱を求めていた智さんの手が、そのまま私の右手でリズムをとったり、からめてみたりと遊び始める。

友だち・・・友だち・・・友だち・・・

（廣瀬さんのお母さん（9月急逝）のご冥福をお祈りいたします）

住本

『伝　言』

「平和」を感じるときは
　　どんなときですか？
「戦争」はなくなると思いますか？
「教育」って何ですか？

躾けという名の虐待。
親が子を、子が親を殺める。

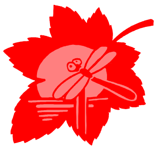
「命」より大切なものはありますか？
「障害」って何ですか？
「差別」ですか、区別ですか？
「普通」ってどんな状態ですか？
「自立」って何ですか？
「インフォーマル」は、
　何時フォーマルになりますか？
「障害程度区分」によって
　振り分けられてしまいませんか？
「最低限の生活」は
　保障されていますか？
「ケアホーム」って何ですか？
「ここ」にいる全ての人が、
　幸せでありますように。

井上

豊岡光生園　園だより

『おやき』

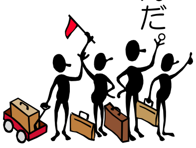
職員旅行に行った。
蕎麦打ち体験をした。
「おやき」というのもこしらえた。



店のおばちゃんが「おやき」の手本を見せてくれた。
小麦粉をこねて、まるめて、つぶして、具を詰めて、また丸めた。
みようみまねで、やってみた。
やりだしたら、すぐに、「ちがう、ちがう」とおばちゃんに注意された。
どこが違うか分からなかった。
おばちゃんも、どこが違うか言わなかった。
「言われたとおりにやりなさいよ」という目が、みんなの手先をみつめてた。
面白半分に、でっかい「おやき」を作り出したやつがいた。
「だめ！　だめ！」と即座に、おばちゃんに怒られて、取り上げられていた。
しばらくして、個性的な「おやき」がならんだ。
いびつなの、空を仰いだの、目印つきの、ひらべったいのが、自己主張してた。

おばちゃんは、ため息をついていた。
みんな、「おやき」の焼き上がりを期待しながら、蕎麦打ち体験で汗を流した。
初めてだったので、ふうふう言って、蕎麦を打った。
店の主人の指導は、いい按配だった。
ようやく昼餉の時間になった。
「蕎麦」とは言い難い蕎麦を手繰った。いや、手繰れず、もごもご食べた。
でも、面白かった。
ようやく「おやき」が焼きあがって出てきた。
みんな、自分のはどれだと、ちょっぴりわくわくした。

けれども、「おやき」は、個性を失くしてた。
蕎麦と格闘中に、おばちゃんが、一生懸命、丸めなおしたらしい。
品良く、イケ面の「おやき」が誇らしげに並んでた。
蕎麦は面白かったが、「おやき」は、つまらないものになったと、みんなが感じた。
ん？　おい。もしかして自分達も日頃おばちゃんと同じこと、してないかい？
みんなが思った。利用者の顔が浮かんだ。
いい研修旅行になった。　（H）



$E_0 = mc^2$

ある重症心身障害児施設で考えた。
看護師さんがベッドに横たわる子のオムツを替えようとしていた。
ベッドの子は、看護師さんの介護の動きに合わせて、必死でおしりを持ち上げようとしていた。
ほとんど、その子のおしりは持ち上がってはいなかったが、それでも看護師さんにとってはオムツがわずかばかり替えやすくなった。
物理学者のアイン氏は解説する。
「偏り無き洞察力に富む諸君！　お分かりだろうか。
看護師が必要とする介護力をラージ A とする。
おしりを必死で持ち上げようとするベッドの子のふんばり力をスモール a とすると、
実際に消費された労働力は［A－a］である。
このとき、軽減せられた労働力は、まさしく、ベッドの子の労働によると言える。」
さらにアイン氏はつけ加える。
「だが、しかし、諸君。この法則が認められて、この子の労働力が正当に評価されるのは、
ともに生きるという絶対世界をおいて他にない。
相対世界では、この子の労働力は等閑視せられて、
看護師の労働力のみが強調されるのである。
また、さらに言えば、この子の体内に内在する膨大なエネルギーが看護師の生きがいエネルギーに変換されているにもかかわらずに、である。」
H. T.

千葉県共同募金会助成事業

このたび、「千葉県共同募金会」の助成により、鴨川ひかり学園利用者送迎用車両としてワゴン車を整備することができました。千葉県共同募金会及び寄付者の皆様に謹んで感謝の意を表します。

事業名　送迎用車両の整備
事業内容　トヨタハイエースDX十人乗り
総事業費　二百三十七万円
補助額　百四十二万円
施設名　鴨川ひかり学園
完　成　平成十八年九月二十九日

鴨川ひかり学園　施設長　栗原　祥浩

日本財団助成事業

このたび、「日本財団」より三千万円の助成金をいただき、三芳光陽園の改造・改修工事を開始します。

三芳光陽園は平成二年に日本財団（当時は日本船舶振興会）の助成をいただき建設された施設ですが、建設から十六年を経過し、施設設備の老朽化と入所者のADLの低下により、従来の施設の形状、設備では入所者の生活に支障が出てきたため、施設の改造・改修、設備の新設を図り、居住環境を改善し、「多床室グループユニットによる処遇」に取り組めるよう今回の改造・改修を計画しました。

事業の内容としましては、

①居室を改造して
　リビングスペースを創設
②廊下に空調設備を新設
③水周り設備の改修

が主なところです。

国、県が推進する個室ユニットへの改造ではありませんし、増床もありません。これからも増えていくであろう利用者負担に見合う処遇と生活の場を提供していく努力をしていきたいという視点からの計画です。工期は今年度いっぱいを予定しています。

ありがとう競艇
日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

この改造・改修工事により三芳光陽園通所介護事業所（デイサービスセンター）もリニューアルいたします。（リニューアルに際し、漢字ばかりの硬い名称から、親しみのある名称に変更しようという案も出ております。）

ユニット毎にリビングスペースができますので、特養の食堂は、デイサービス専用の食堂、機能訓練室となります。ゆったりとしたスペースで、ゆったりとした食事や余暇の活動をお楽しみください。好評のバス外出や温泉入浴は引き続きお楽しみいただけます。（現在、教養娯楽費はいただいておりませんが、リニューアル後も継続させていただきます。温泉は、千葉県衛生研究所の成分分析の済んだ鉱泉です。ご利用時の楽しみのひとつとしていただければ幸いです。）

定員二〇名、介護予防対象の方もご利用いただけます。ご来園をお待ちしております。

三芳光陽園　施設長　神谷　亨

【編集後記】各地から紅葉の便りが聞こえてきますが、房総半島の紅葉はもう少し先になりそうです。ということは、今年は暖冬？福祉の世界みたいな厳冬にならないことを祈りつつ、『きらめき第十一号』をお届けします。（広報委員会）